

みえ生と死を考える市民の会 平成 29 年度総会についてのお知らせ

日 時 平成 29 年 4 月 29 日 (土・祝)
13:30 から (13 時 受付開始)
場 所 三重県総合文化センター
(生涯学習センター 4 階) 中研修室

当会の基本的な方向を決定するための大切な総会です。ぜひともご都合を調整いただき、ご参加をよろしくお願い申し上げます。同封ハガキの、お返事をお待ちします。

参加困難な場合は、総会成立のために、委任状欄の記載もお願い申し上げます。



ミニ講演会のお知らせ (総会後の会場にて。一般公開)

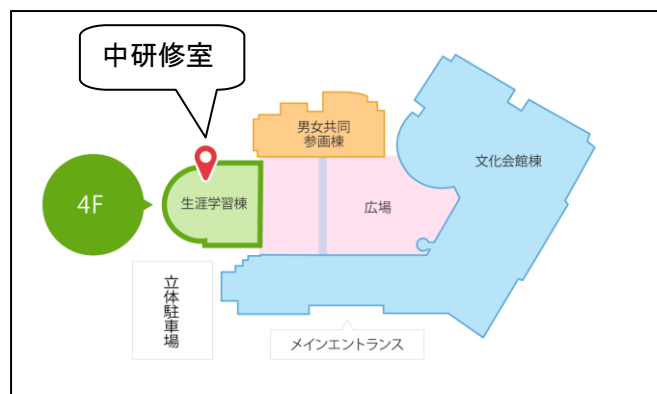
14:30 から 16:00 まで予定 (14 時 受付開始)

講師

きたじま ぎしん
北島 義信 先生



演題 「仏教と生死
—浄土真宗を中心に—」



(お写真とご略歴等は、
四日市大学ホームページより転載)

四日市市の浄土真宗寺院に生まれた (1944 年)。大阪外国語大学インドパキスタン語学科卒業。大阪市立大学文学部卒業。大阪市立大学大学院文学研究科修士課程修了。四日市大学短期大学部教授を経て、現在は四日市大学環境情報学部名誉教授。真宗高田派正泉寺前住職、黒人研究会 (JBSA) 元代表、地域文化学会理事。

平和と宗教、土着文化の現代化が、私の実践にかかわるライフワークです。

現代アフリカ文学は第 2 次世界大戦以後、解放闘争と結合しつつ爆発的に発展してきた。百科全書的作用をはたす文学、社会の裁判官の役割をはたす作家、土着文化と現代の課題の結合、を特徴とする現代アフリカ文学が、欧米中心主義・グローバリゼーションをどうのりこえるのか、その問題提起がわれわれとどう関わるのかが、まず私の研究テーマである。

1970 年代以降、宗教は社会の変革に大きな力を発揮している。1979 年のイラン・イスラーム革命、1993 年の南アフリカ共和国のアパルトヘイト体制の崩壊におけるキリスト教の役割などにその実例を見ることができる。これらには基本的に大量殺戮が見られないことが特徴的である。宗教は「心の中」だけの問題を対象とするものではなく、平和実現に貢献するものである。宗教と平和実現のあり方が、また私の研究テーマである。